

児童用学校生活アンケートより

2026/03/04

主幹教諭

学校生活アンケートを始めて 13 年目となります。結果より見えてくる児童の様子についてまとめました。

考察においては大きく肯定的な回答（そう思う＋少し思う）と否定的な回答（あまり思わない＋そう思わない）に分けて行いました。学年別の細かい資料は別データとなります。表は斜めに見ると同じ児童を見ることができます。（昨年度 5 年生は今年度 6 年生です。）

1. 回収率

学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全体
児童数(人)	117	103	130	131	126	141	748
回収人数(人)	92	76	106	109	110	112	605
回収率(%)	78.6%	73.8%	81.5%	83.2%	87.3%	79.4%	80.9%

2. 結果の考察

○今年度内容が変わった項目

①昨年→授業は、わかりやすいですか。

今年→授業を楽しく受けることができましたか。

②昨年→算数の時間に、問題を読み取って絵や図、式に表して考えることができましたか。

今年→授業のルールを守り、前向きに取り組むことができますか。

⑨昨年→学校は楽しいですか。

今年→困っている友だちに声をかけていますか。

○成果

・90 ポイントを超えていた項目（赤字にしています）

③タブレットはルールを守って、正しく使うことができますか

⑥そうじ時間はいっしょうけんめいそうじをしていますか

⑦友だちとなかよく協力して学校生活をおくれていますか

⑧学校でのいのちの大切さを学んでいますか

- ・③のタブレットは決まりを守って正しく使用するという点において多くの児童が守れていますが、一部の児童がゲームをしたり、動画を見たりすることが課題として挙げられます。クラスルームの活用で児童のタブレット使用に対する意識も改善されると思います。
- ・⑥のそうじについては各学年統一した映像をもとに指導していただき、先生方が掃除中に見守り、積極的に肯定的な言葉がけをしていただいていることで子どもたちも前向きに取り組んでいると感じました。
- ・⑦の友だちとなかよく協力して学校生活をおくれているかについては、児童のトラブルを先生方が丁寧に聞き取り、納得するまで話していただいていることで、もやもやが減り、なかよく学校生活をおくることができていると思います。
- ・⑧の学校でのいのちの大切さを学んでいるかについては日々の指導の中でいのちの大切さを伝え続けているからだと感じました。

※上記 90 ポイントを超えていた項目について児童の認識と教師の認識にズレがあるように感じました。時間を守らず、ゲームや動画を見ているのに正しくできていると思っている点、ほうきを持っているだけ、最後にごみを集めていない、丁寧に雑巾がけできていないのに一生懸命掃除をしていると思っている点、一緒にふざけて問題行動を繰り返しているに仲良く協力できていると思っている点など、質問そのものに課題があるように感じます。次年度はこのような内容も考慮しながら質問内容を再検討することも必要かもしれません。

●課題

・学習について

①授業を楽しく受けることができましたか。

今年度からの質問項目で、肯定的な回答が84ポイントと90ポイントを下回りました。子どもたちが「できた！わかった！」と実感できるよう様々な手法で授業を展開していくとよいと思います。

・生活について

②授業のルールを守り、前向きに取り組むことができているか。

こちらも今年度からの質問項目で肯定的な回答が83ポイントでした。明確な目的・ゴールのある授業展開、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりなどわかりやすい授業を展開していくことが大切です。わかりやすい授業を児童に示すことで何をするのか、何をしてはいけないのかが明確になり、学習のゴールに向かいやすくなると思います。

④ろうかを走らず歩いていますか。

昨年度より4ポイントの上昇が見られましたが、依然70ポイントと低くなっています。朝、中休み前、昼休み前、下校前が特に走っている児童が多い印象です。改めて廊下を走らないことの重要性と理由を児童にしっかりと説明することが大切です。生徒支援部を中心に様々な方法で児童の心から変えていく必要があります。それにはもちろん教師全員が一体となって同じ指導をやりきることが必要です。ご協力よろしくお願ひします。

⑤あいさつはすすんでしていますか。

今年度は昨年度よりさらに5ポイントが下がってしまいました。

元気に挨拶ができる児童も多くいるのですが、教師が挨拶をしても反応をしてくれない児童も多くいます。まずは職員室から教師が元気に挨拶することにより挨拶をする雰囲気を作ることが大切です。指導の前に我々の挨拶から見直してみませんか。

児童へは委員会でMISSONのようなものを活用し、学校全体を巻き込んでの取り組みや、各学級で挨拶への意識づけを積極的に行うなど、挨拶を意識させる取り組みが必要だと考えます。また生徒支援部の全校朝会や校内放送での話などであいさつの大切さを伝えることも効果的です。

⑥困っている友だちに声をかけていますか。

今年度からの質問項目で、肯定的な回答が84ポイントと90ポイントを下回りました。まずは教師から教室で困っている児童を見つけ積極的に声をかけましょう。その姿を見せることで声をかける必要性を感じさせ、困っている友だちに声をかけた児童にその場で肯定的な声掛けをする。この繰り返しが困っている友だちに力を貸すことが大切であると伝える方法の一つだと思います。また、児童が他者の困りごとを自分事として捉える気付きの視点を持っているかも重要なポイントとなってきます。そのような他者理解を促す授業を考えることも大切です。ほかにも様々な方法があると思いますので教師の個性を生かして児童にアプローチしてみてください。

・運動について

⑩体育などで、運動することは楽しいですか。

86ポイントで、昨年度より2ポイント下がっています。

楽しい体育の授業のポイントには、昨年同様、やりたいと思えるような目標があること、質的にも量的にも運動が保証されていること、友だちと楽しく関わり合えること、安全に活動ができることなど、さまざまな項目があります。学年部でしっかりとルールや環境を整え、各学年に応じた楽しい授業の計画を立てられると良いです。

①休み時間に、外で元気にあそんでいますか。

今年度は4ポイント上がりましたが71ポイントで90ポイントを大きく下回っています。学年が上がると外遊びが減る傾向があります。

こちらも昨年同様、児童の放課後や休日の多様な過ごし方や、タブレットやゲーム機の普及などにより、昨今は運動量が減ってしまっている傾向にあります。また、強制的な全体遊びをしんどく感じてしまう児童、外遊びよりも本を読んだり友達とゆっくりと過ごしたりしたい児童など、さまざまな児童がいます。また、6年生の中には休み時間の委員会活動が忙しい児童もあるかもしれません。休み時間に外で遊ぶ楽しさや大切さを感じる取り組みを考えていきたいですね。

※この結果の考察は主幹教諭からアンケートを見た一面です。各学年、部会など立場を変えて考察することで、また違った成果や課題が見えてくるかと思います。忙しいのは重々承知していますが、学年会や定例部会での今後の取り組みについて話題に挙げてみてください。学校、学年、学級運営の具体的な改善になると思います。